

2014 年 7 月 23 日

日本コヴィディエン株式会社

「足の不調と疾患／下肢静脈瘤に関する意識調査」結果発表

- ・30 代以上の女性およそ 5 人に 1 人が下肢静脈瘤の疑いあり
- ・「足の血管の透け、浮き、コブ」が気になっても、8 割以上が受診経験なし
受診しない理由は、「病気だと思わなかったから」が 1 位
- ・疾患名の認知は 3 割、過半数は疾患をよく理解していない

日本コヴィディエン株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:野田良、以下コヴィディエン)では、下肢静脈瘤に該当¹する女性を対象に「足の不調と疾患／下肢静脈瘤に関する意識調査」を実施しましたので、お知らせいたします。

下肢静脈瘤とは、足の静脈の弁の機能が何らかの原因で低下し、血液が逆流してしまうことによっておこる病気です。ゆっくりと進行し、重症化すると足の表面に血管が浮き出て蛇行する、皮膚がただれ変色したり、潰瘍ができる、さらには歩行に困難をきたすこともあります。加齢と比例して発症率も上がるため、超高齢社会を迎えた日本での患者数は今後増加するであろうと推測されています。

コヴィディエンでは、本調査を実施するに当たり、下肢静脈瘤の有病率を探るために、30歳以上の男女 40,000人を対象とした「足の不調と疾患の状況」についての事前調査を実施しました。その結果、下肢静脈瘤の疑いのある人は全体で13.0%であり、推計すると、日本において現在、約1,160万人²が該当するという結果になりました。なお、男女別では、男性で6.5%、女性では19.0%と女性により多く該当者がいました。また、年齢が高くなるほど増える傾向がみられました。

そこで、該当者が多くみられた女性に注目し、下肢静脈瘤の状態がみられた女性 1,548 人を対象(以下:下肢静脈瘤該当者)に、疾患意識と受療行動などについて調査を実施しました。その結果、85.8%が足の血管が透けて見える、浮き出ている、こぶのようなものができるといった「足の血管の目立ち」を気にしているにもかかわらず、「病気だと思わなかった」などの理由で 85.2%が受診していませんでした。また、下肢静脈瘤という病名を知っている人は 3 割程度みられた一方、どのような病気が詳しく知らない人が過半数を占めました。

下肢静脈瘤は加齢や長時間の立ち仕事など足への過度の負担によって発症し、そのまま治療せずにおくと徐々に悪化していきます。特に女性の場合は、足の表面に蜘蛛の巣状の血管が浮き出る、こぶのような皮膚症状が出るなど足の見た目が損なわれることで、「足を出す洋服に抵抗がある」「人前で足を出すのが恥ずかしい」というように、気持ちや行動が消極的になる傾向がみられ、日常生活の QOL は低下す

¹下肢静脈瘤の状態、足の「血管が透けて見える」「血管が浮き出る」「血管にこぶのようなものができる」といった「足の血管の目立ち」のいずれかを訴える人を該当者とした。

²総務省 平成 26 年 1 月 人口推計(30～89 才)を元に算出

ると推察されます。

お茶の水血管外科クリニック院長広川雅之先生は、「加齢に伴って足におこる疾患はいろいろありますが、下肢静脈瘤は、初期の段階では気づかない人が多く、日常生活でも大きな不都合がありません。そのため、老化現象だから仕方がないとあきらめてしまい、治療をするという考えがいきわたっていないといえます。しかしながら、進行すれば、日常生活への影響も大きく、予防や治療には積極的に取り組む必要があります。」と、快適な生活を送り続けるためには予防と早期発見、そして適切な治療の重要性を強調されています。

■調査結果概要

○調査概要

【調査①(事前調査)】

調査対象者： 全国の 30 代以上の男女

調査方法： インターネット調査

調査時期： 2014 年 6 月

調査サンプル： 有効回収数 40,000（男性 19,265 女性 20,735）

※調査①では、日本の性別、年代の人口構成比に合わせたウェイトバック集計を行っています

【調査②(本調査)】

調査対象者： 調査①にて、「下肢静脈瘤が疑われる状態*を感じたことがある」と回答した
30 代以上の女性

*足の「血管が透けて見える」「血管が浮き出る」「血管にこぶのようなものができる」といった「足の血管の目立ち」のいずれか

調査方法： インターネット調査

調査時期： 2014 年 6 月

調査サンプル： 有効回収数 1,548

※本リリースにおいて記載されている数値は、全て小数点第 2 位以下を四捨五入しています

<調査結果の要約>

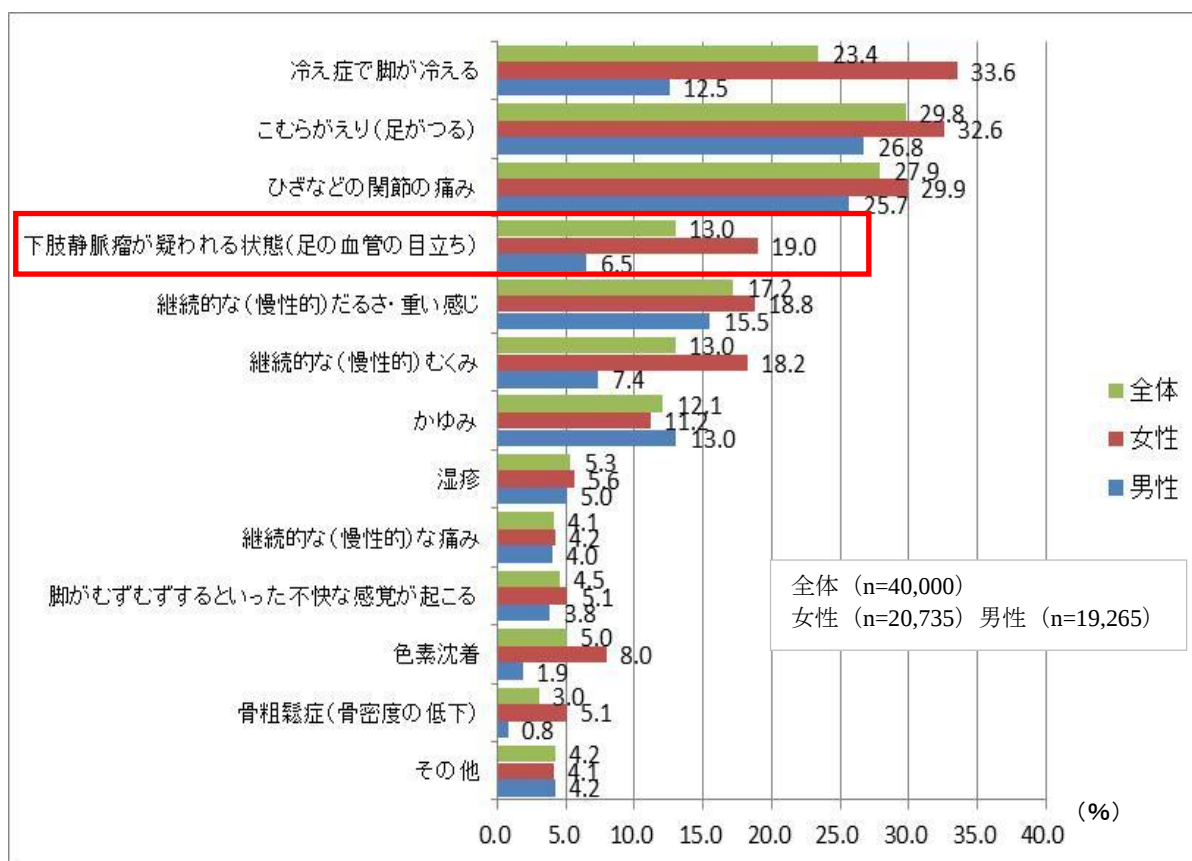
【調査①】

1. 下肢静脈瘤の有病率は？ 30 歳以上の女性の 5 人に 1 人に下肢静脈瘤の疑い

30 歳以上の男女(男性 19,265 人、女性 20,735 人)に足の症状や疾患について尋ねたところ、下肢静脈瘤が疑われる 3 つの状態(血管が透けて見える、血管が浮き出る、血管にこぶのようなものができる)である「血管の目立ち」を訴えた人は全体で 13.0%、男女別では、女性で 19.0%、男性で 6.5%であった。

年代別にみると、年齢が高くなるほど、「血管の目立ち」を訴える人が多くなり、下肢静脈瘤の疑いのある人は加齢とともに増えていく傾向が見られた。

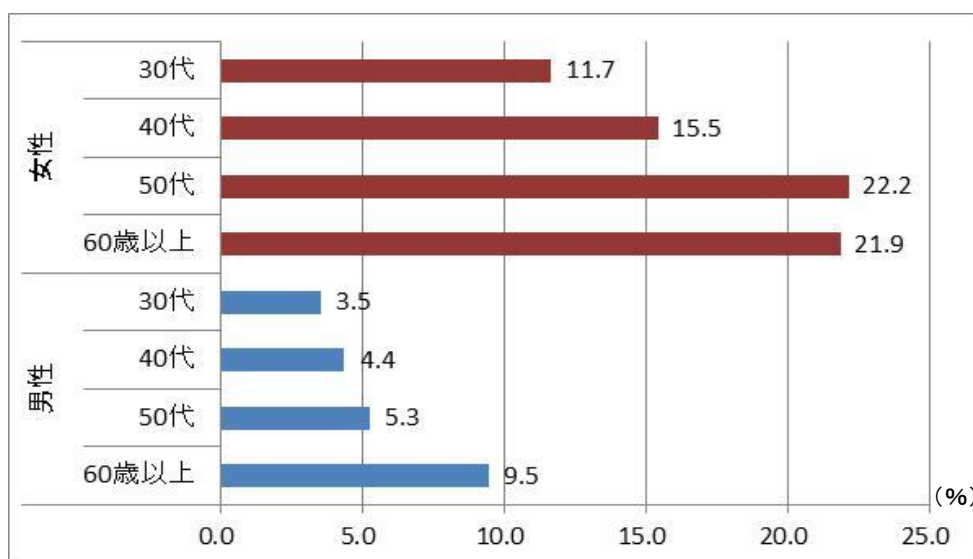
Q.あなたは、下記にあげた足の症状や疾患を感じたことがありますか？(MA)



※足の血管の目立ち(血管が以前と比べて透けて見える状態、血管が浮き出たような状態、血管にこぶのようなものができる状態)のいずれかを感じたことがあると回答した人

Q.あなたは、下記にあげた足の症状や疾患を感じたことがありますか？(MA)

足の血管の目立ちについて／男女別・年代別



女性
30代 n=3,574
40代 n=3,966
50代 n=3,430
60歳以上 n=9,764

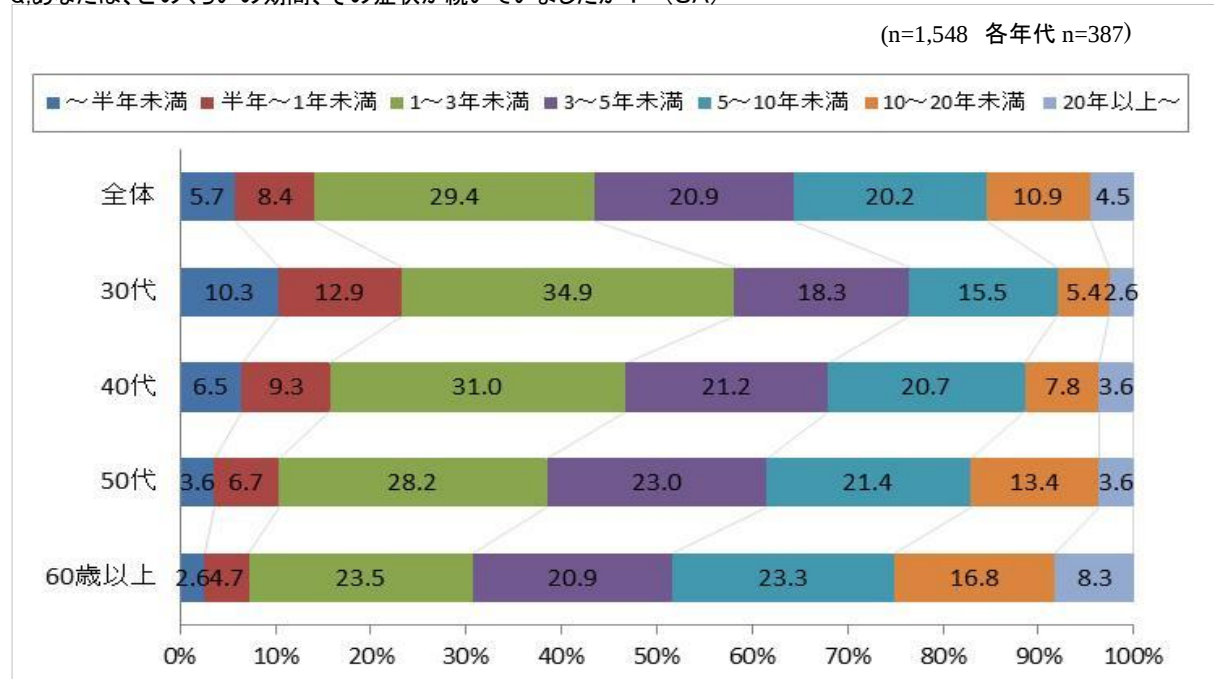
男性
30代 n=3,697
40代 n=4,063
50代 n=3,423
60歳以上 n=8,082

【調査②】 調査対象：下肢静脈瘤該当女性（有効サンプル数：1548 人、各年代均等割り付け 387 人）

2. 下肢静脈瘤の疑いのある状態（血管の目立ち）が、5 年以上続いている人は 3 割以上

血管の目立ちが続いている期間（罹患期間）が 5 年以上におよぶ人は、全体で 35.6%。60 歳以上では、ほぼ半数の 48.4%にのぼる。

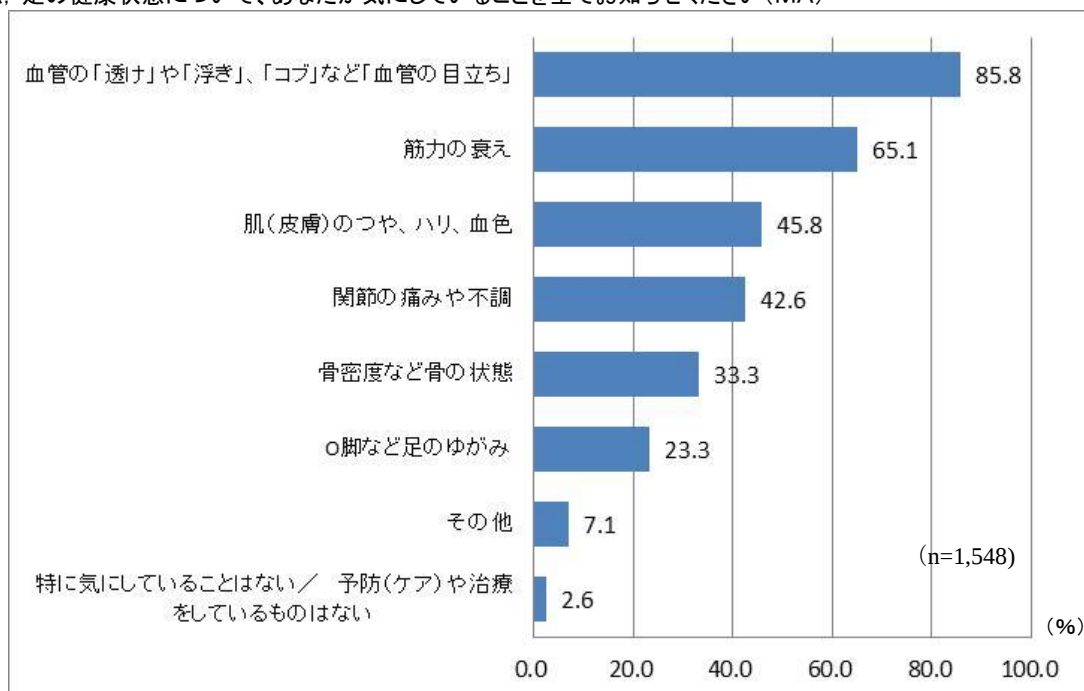
Q.あなたは、どのくらいの期間、その症状が続いていましたか？（SA）



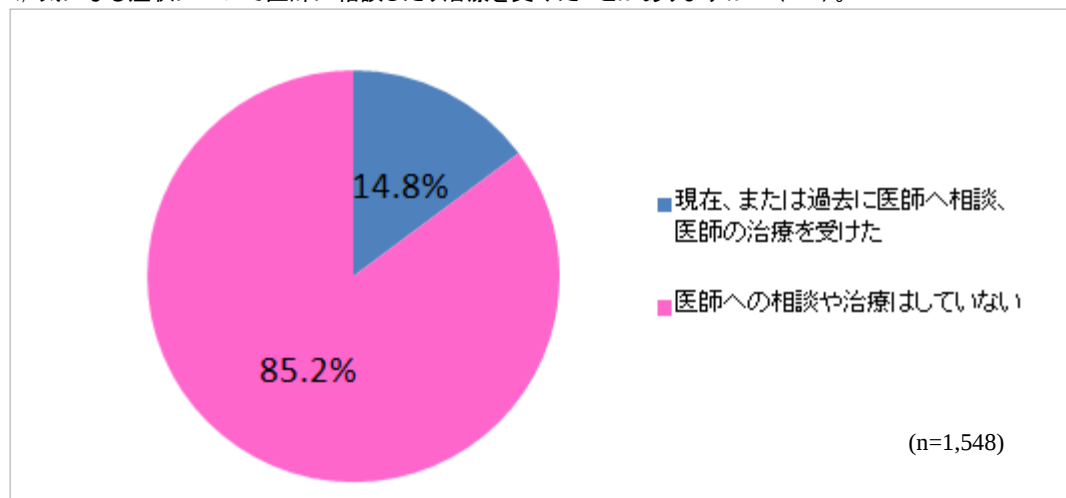
3. 「血管の目立ち」を気にしているが、8 割以上が医師への相談や治療経験なし

「筋力の衰え」や「肌のつや・ハリ・血色」よりも、足の「血管の目立ち」が気になる人の方が多いものの、実際に医師に相談したり、治療を受けるなどの受診経験のある人は 14.8%にとどまった。

Q. 足の健康状態について、あなたが気にしていることを全てお知らせください(MA)



Q、気になる症状について医師に相談したり治療を受けたことがありますか？（SA）。

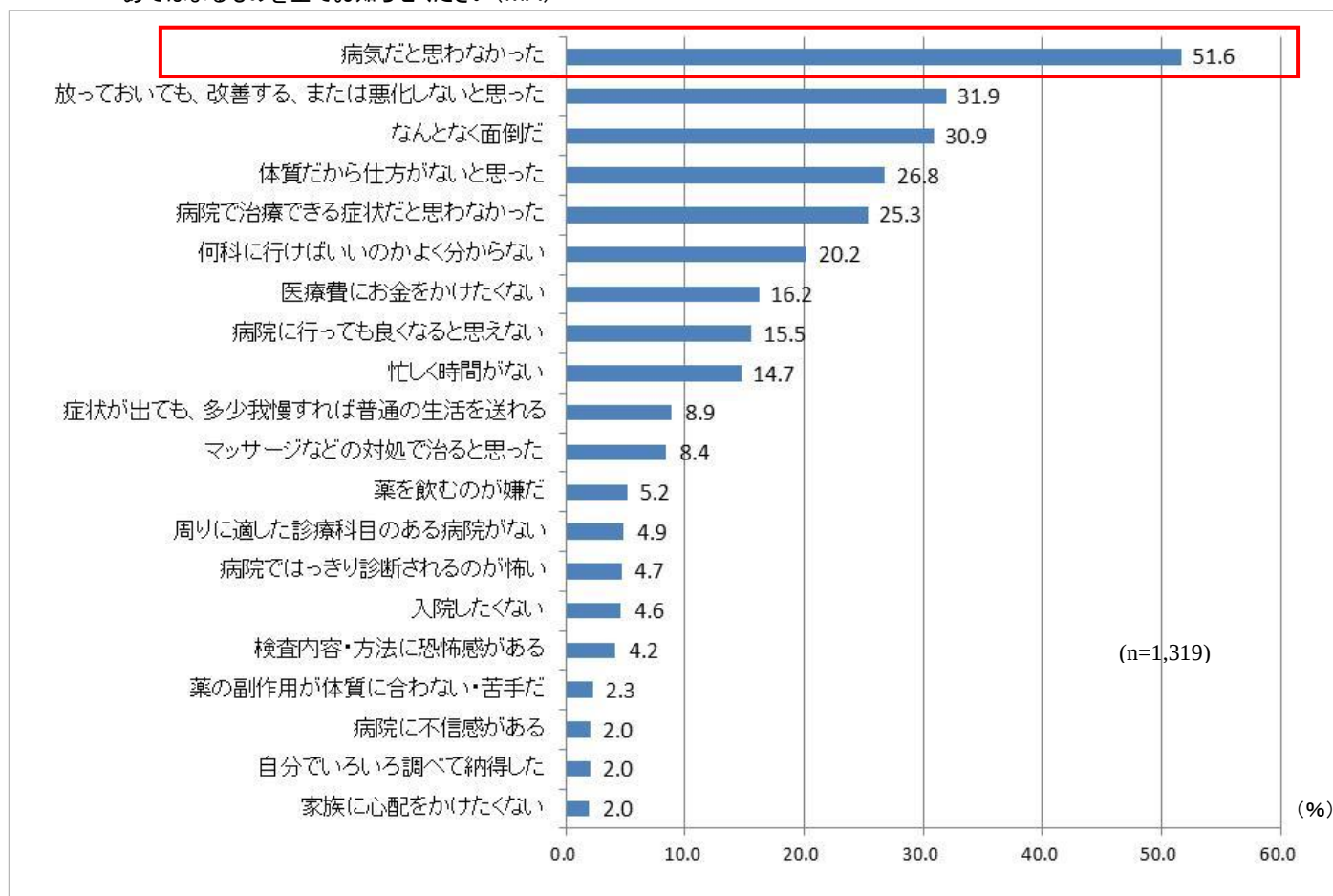


4. 受診しない理由の半数は、「病気だと思っていない」から

医師に相談したり治療を受けたことがないと回答した 1,319 人に、受診しない理由を尋ねてみたところ、下肢静脈瘤の人にみられる「血管の目立ち」を、「病気だと思っていない」人が半数を占め、「放っておいても、改善する、または悪化しないと思ったから」「体質だから仕方がないと思った」「病院で治療できる症状だと思わなかった」という回答も 3 割程度みられた。

Q、（治療・相談をしたことがない人に）なぜ医師に相談したり・治療を受けなかったのですか。

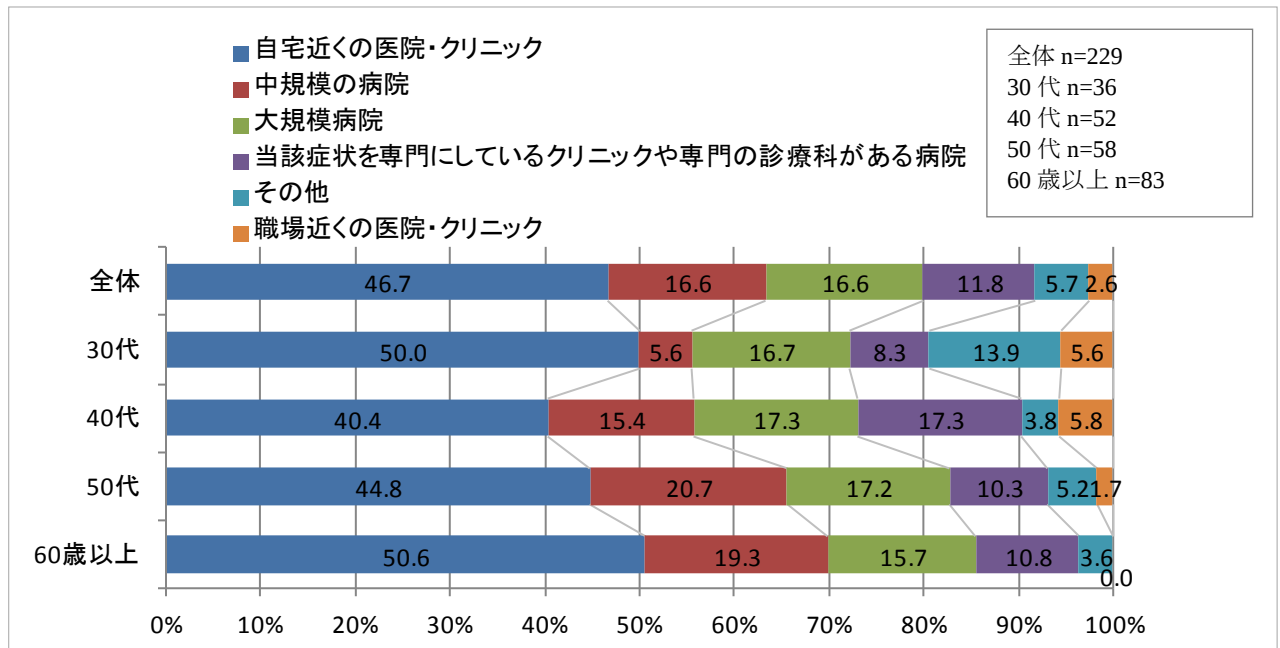
あてはまるものを全てお知らせください（MA）



5. 受診した施設は身近な病院が主であり、専門病院は1割程度

受診経験のある229人が、相談・治療をした施設は、「自宅近くの医院・クリニック」が全体で46.7%と最も多くなっている。一方、「当該症状を専門にしているクリニックや専門の診療科がある病院」は11.8%と低くなっている。

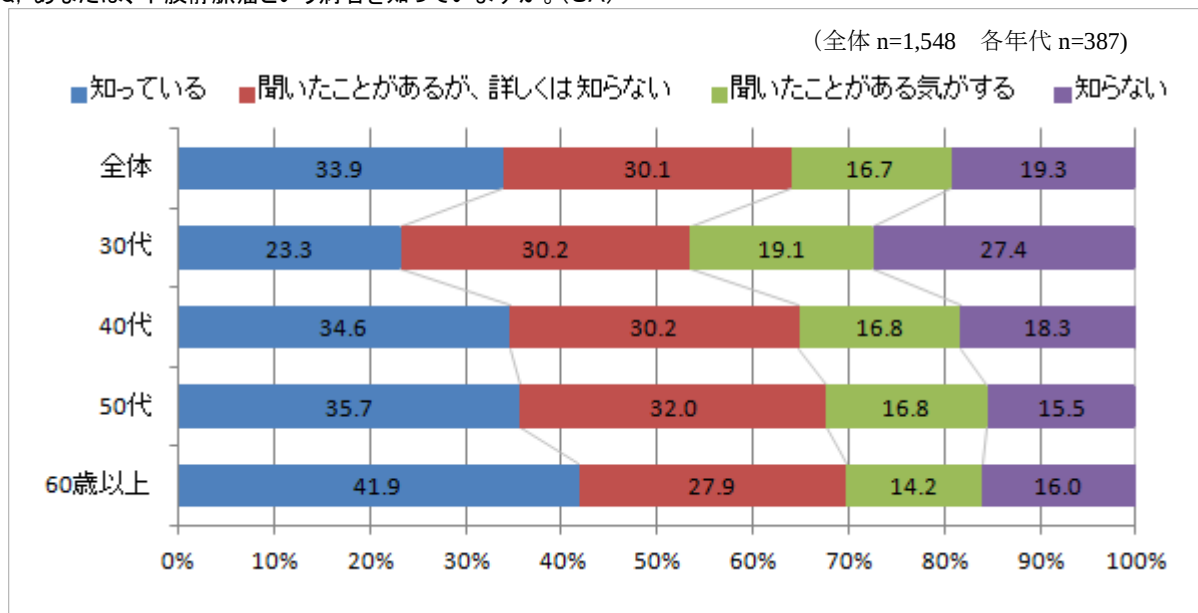
Q. (治療・相談をしたことがある人に)あなたが、医師に相談・治療を最初に受けた医療機関はどのような医療機関でしたか。あてはまるものを1つお知らせください。(SA)



6. 下肢静脈瘤該当者でも、過半数が疾患をよく理解していない

下肢静脈瘤該当者であるにもかかわらず、病名を知っている人は33.9%。知らない(19.3%)、聞いたことがある気がする(16.7%)、聞いたことはあるが詳しくは知らない(30.1%)と、疾患をよく理解していない人が過半数を占めている。

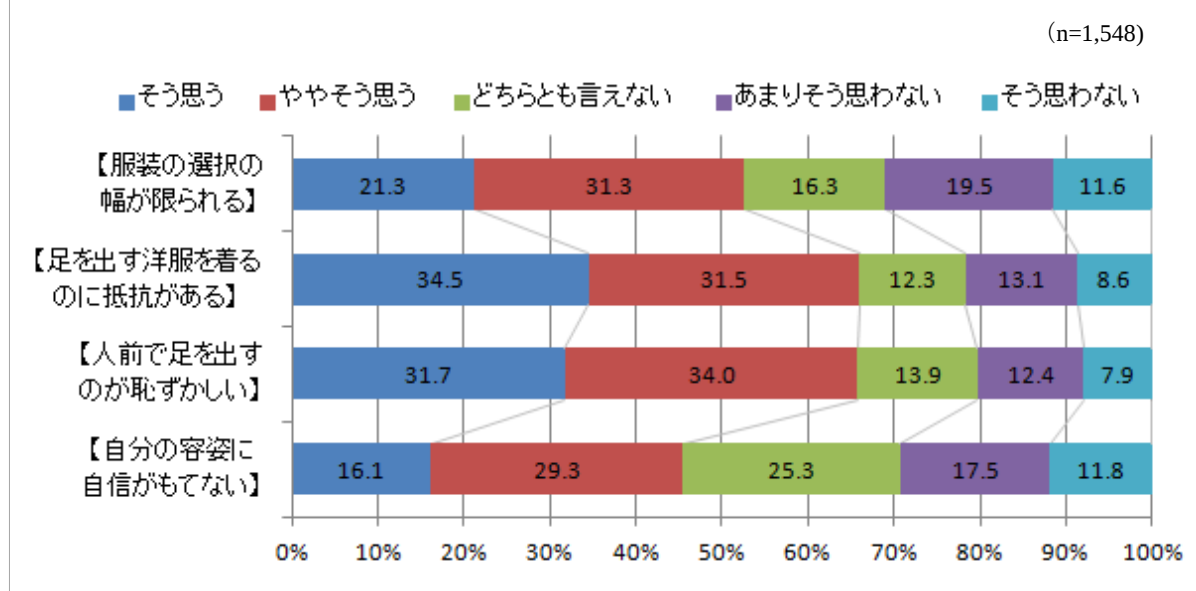
Q. あなたは、下肢静脈瘤という病名を知っていますか。(SA)



7. 下肢静脈瘤該当者は、6 割以上が「足を出す洋服に抵抗がある」と、QOLへの影響も

「血管の目立ち」があることで、6 割以上が「足を出す洋服に抵抗がある」「人前で足を出すのが恥ずかしい」、5 割が「服装の選択の幅が限られる」と答えており、気持ちが後ろ向きになっている人が多いことがうかがえる。日常生活に不便がないといいつつも、日常生活の QOL の低下は否めない。

Q. 症状について、日常生活で困っていることや不満に思っていることとして、以下のことはどの程度あてはまりますか？(SA)



Q. 症状について、日常生活で困っていることや不満に思っていることをお知らせください。(自由回答)

- ・夏でもスカートは気が引ける (30 代女性)
 - ・実年齢より老けて見える (30 代女性)
 - ・不健康そうに見える (40 代女性)
 - ・家事をするだけですぐ足が痛くなる (40 代女性)
 - ・痛みが不規則にでるので、物事に集中しづらい (40 代女性)
 - ・足がだるくなる、むくみやすい (50 代女性)
 - ・ふくらはぎの内側の血管が、透けて見えてジンジンする、痛みがある (50 代女性)
 - ・足がむずむずして眠れない (50 代女性)
 - ・時々コブのようなところに痛みがある (60 代女性)
 - ・痛くて立っているのがつらくなる (60 代女性)
 - ・いつコブが破裂しないか不安 (60 代女性)
- 等

■本件に関するお問い合わせ先

コヴィディエングループジャパン

人事総務本部広報グループ

堀内 (03-5717-1673)

猪田 (03-5717-2769)